

# 災害に強い森づくり 事業検証報告書 2015



平成 27 年(2015)

兵庫県

## 災害に強い森づくり事業検証報告 2015 の発刊にあたり

ひょうごの豊かな森は、山地災害の防止、洪水・濁水の緩和、自然とふれあいの場など、森林が持つ公益的機能を発揮することで広く県民の生活に深く関わっています。

このため、県では、平成 16 年の一連の台風災害等による甚大な山林被害を踏まえ、平成 18 年度から 2 期 10 年にわたり、急傾斜地の人工林や集落裏山の里山林の防災機能を高める整備など「県民緑税」を活用した「災害に強い森づくり」を進めてきました。

この事業実施にあたっては、税を負担していただく県民の皆様のご理解を得ながら進めることが重要であることから、学識者による事業検証委員会を設置して、専門的な視点から整備効果の検証を行いました。その結果、間伐木を利用した土留工の設置による表面侵食防止機能の向上や災害緩衝林による流木・土石流被害の軽減、人家裏山での倒木への不安解消などの整備効果が明らかになりました。

また、事業検証委員会からは、平成 26 年 8 月豪雨災害に代表される近年の局所的で猛烈的な集中豪雨への対応やシカ食害等で衰退した下層植生の回復などの提言を頂きました。

平成 28 年度から始まる第 3 期目の災害に強い森づくりでは、こうした提言を活かし、さらなる防災機能の強化に取り組むこととしています。

全国的にも先駆的な取組である「災害に強い森づくり」は、長期にわたる樹木の成長を通じ整備効果が発揮されることから、今後とも、継続調査を重ね、検証結果をさらに確実なものにしていきます。

事業検証委員会の服部委員長をはじめ、委員の皆様には、2 箇年にわたる委員会での検証の結果を「事業検証報告書 2015」としてとりまとめることができましたこと、深く感謝申し上げます。

森林の持つ機能を持続的に発揮させるには多くの労力と長い年月が必要です。今後とも、県土空間の安全で快適な環境を保全するため、ひょうごの豊かな森づくりを推進してまいりますので、県民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月

兵庫県 環境部長 梅谷 順子

# 目次

I	「災害に強い森づくり（第1期対策）」の導入の経緯	
1	平成16年の台風等豪雨による森林被害	1
2	「災害に強い森づくり」の課題と取組	1
II	「災害に強い森づくり（第2期対策）」の導入の経緯	
1	平成21年台風第9号による被害	6
2	平成21年台風第9号による森林被害	6
3	「災害に強い森づくり」の新たな課題と取組	7
III	事業検証の方針	
1	事業検証委員会における検討	11
2	各事業の目標とする機能と主な調査項目	12
IV	「災害に強い森づくり（第2期対策）」の整備効果の検証結果について	
1	緊急防災林整備（斜面对策）	14
2	緊急防災林整備（溪流対策）	20
3	針葉樹林と広葉樹林の混交林整備	32
4	里山防災林整備	38
5	野生動物育成林整備	49
6	住民参画型森林整備	55
V	事業評価	
1	数量的評価	65
2	経済的評価	69
3	経済波及効果	73
VI	平成26年8月豪雨災害の状況	
1	平成26年台風第11号による被害	75
2	平成26年8月16日からの大雨による被害	76
VII	「災害に強い森づくりの新たな展開」に向けた提言	
1	背景	78
2	平成26年8月豪雨災害の教訓	78
3	提言	78